



令和5年度・6年度モデル事業における 治療と仕事の両立支援の取り組みと課題

藤田医科大学 総合アレルギーセンター センター長
藤田医科大学 ばんだね病院 総合アレルギー科 教授

矢上 晶子

2025年2月6日

令和6年度 アレルギー疾患医療全国拠点病院連絡会議

報告内容一覧

- ◆ 当センターの活動概要
- ◆ 免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援
 1. 当センターにおける両立支援の取り組み
 - a. 患者さんへの両立支援
 - ① 実施体制
 - ・ 両立支援の必要性の実態調査
 - ② 両立支援事例報告
 - b. 企業における両立支援
 - ① 企業での勉強会の実施
 2. 今後の課題
- ◆ まとめ

当センターの活動概要

藤田医科大学総合アレルギーセンター

愛知県名古屋市中川区尾頭橋にある
藤田医科大学ばんたね病院にあります



7 診療科が連携

アレルギーに悩むすべての患者さんのために
**アレルギーの専門家がチームを組んで、
一人ひとりの患者さんを丁寧に診療します。**

総合アレルギーセンターの特徴

- 1 多科連携による多角的視点からの診療・治療を実施。**
当センターは、多角的視点からの原因究明ができるため、先進的な生物学的製剤/抗体製剤による治療が必要な気管支ぜん息やアトピー性皮膚炎、重度の食物アレルギーなど、今まで治療に難渋していた症例の治療や原因抗原の解析が可能です。
- 2 各専門分野におけるアレルギー専門医が勤務。**
診療・治療はもちろん、教育研修施設として新たな認定医を育成。
当センターには、9名の日本アレルギー学会認定アレルギー専門医が勤務しています。
各診療科それぞれの高度な知識と経験に裏付けされた患者さんごとの治療を提供できます。
- 3 愛知県のアレルギー疾患医療拠点病院として治療と仕事の両立支援を実施。**
専門医と両立支援コーディネーターがチームとなって、患者さんご々の状況・要望に合わせて、治療と学業・仕事の両立を支援する診療体制をつくり、取り組んでいます。
- 4 学校や患者会への講演活動を実施。加えて、産学官での連携した活動をおこない、地域や企業のアレルギー疾患を取り巻く環境を解決。**
生活環境の中に潜むアレルギー疾患の原因や、緊急時の対応策など、正しい知識の啓発活動を実施しています。また、企業とも連携してアレルギー疾患を未然に防ぐ取り組みもおこなっています。



アレルギー疾患に苦しめない社会の実現をめざして

日本では、約2人に1人は何らかのアレルギーに罹患していると言われ、気管支ぜん息・アトピー性皮膚炎・花粉症・食物アレルギーなど全て増加傾向にあり、社会問題となっています。アレルギー疾患は全身疾患のため複数の臓器にまたがるため、当センターでは、アレルギー学の高度な専門知識、技術、経験を持った総合アレルギー科、呼吸器内科、小児科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、消化器内科の医師が各科の垣根を越えた連携をとり、従来の縦割り診療ではなしえなかった、包括的なアレルギー医療をおこなっています。生物学的製剤/抗体製剤が必要な気管支ぜん息・アトピー性皮膚炎・じんましんや、重度の食物アレルギー・好酸球性消化管疾患など、今まで治療に難渋していた症例の原因特定・治療にも精力的に取り組んでいます。診療面に限らず、アレルギー総合専門医の教育・育成、アレルギー学の発展に資する研究や情報提供にも注力し、国際社会で活躍するアレルギーセンターとして、アレルギー疾患に苦しめない社会の実現をめざしてまいります。

愛知医科大学 総合アレルギーセンター
センター長 矢上 晶子



科の垣根を越えて、診療・研究・人材育成・情報提供に尽力

愛知県アレルギー疾患医療連絡協議会実施事業



愛知県アレルギー疾患医療連絡協議会実施事業

愛知県アレルギー講演会

アレルギーは怖くない!
楽しく健やかな生活へのヒント

2024 7/27(土) 14:00~16:00

伊藤 浩明
川田 勤
矢上 晶子

プログラム

- 1 知っておきたい呼吸器に關するアレルギーの基礎
- 2 アレルギー性鼻炎と鼻敏感症、アレルギー性皮膚炎の最新治療
- 3 子どものアレルギー - うまくつきあうコツ
- 4 ディスカッション

愛知県アレルギー疾患医療連絡協議会実施事業

愛知県アレルギー講演会

アレルギーは怖くない!
楽しく健やかな生活へのヒント

2024 9/21(土) 14:00~16:00

半田 晶子

プログラム

- 1 おいしく治す、食物アレルギー-最新法
- 2 大人の喘息を克服する! 生活習慣と予防法
- 3 アレルギー性皮膚炎-毎日のケアで症状を軽減する方法
- 4 ディスカッション

愛知県アレルギー疾患医療連絡協議会実施事業

アレルギー実践セミナー

アレルギー疾患の
実践セミナー

2024 11/9(sat) 14:00~17:00

伊藤 浩明
川田 勤
矢上 晶子

プログラム

- 1 学校生活管理指導書の読み方
- 2 目のアレルギー疾患
- 3 最新ガイドラインに基づく気管支喘息への対応

愛知県アレルギー疾患医療連絡協議会実施事業

アレルギー研修会

アレルギー管理の最前線

2024 12/7(土) 14:00~16:00

新美 彰男
平野 耕治
中村 隆一

プログラム

- 1 学校生活管理指導書の読み方
- 2 目のアレルギー疾患
- 3 最新ガイドラインに基づく気管支喘息への対応

2024年度
一般向け講演会、教育関係者向け研修会(YouTubeライブ配信)、医療従事者向け実践セミナーを開催

情報提供：一般の方向けイベントへの参加



2024年度 本学開催 一般の方向け健康イベントにて、セミナー開催、ブース出展

情報提供：医療従事者向け勉強会の開催

【医療従事者向け】
アレルギー診療の明日を考える勉強会
第81回 藤田医科大学
アレルギー勉強会



対象：院内外問わず
医療従事者の方にご参加いただけます

参加費
無料

日本アレルギー学会
受講者単位2点が
取得できます

医師・薬剤師・看護師・臨床検査技師・保健師・管理栄養士など
医療従事者の方などなたでもふるってご参加ください。

FUJITA HEALTH UNIVERSITY
ALLERGY SEMINAR

2025年
日程 1月23日(木) 時間 19:00~20:30 開催方法 WEBライブ配信
全国どこからでもご参加いただけます。

申込 事前申込制。参加申込は、こちらのQRコードをスクリーンショットし、以下のURLよりお願いします。
ZOOMでの開催となりますので、事前にダウンロードしていただくスムーズです。
https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_Pkd7B4y-TJuXo.dX9RCcA

プログラム

座長：桑原 和伸（藤田医科大学ばんだね病院 内科学呼吸器内科 講師）
森 雄司（藤田医科大学ばんだね病院 小児科 講師）

【オープニングリマークス】
廣瀬 正裕（藤田医科大学 総合アレルギーセンター 副センター長）

ミニ
レクチャー
鼻アレルギー診療ガイドライン2024と
花粉症治療
演者：岡野 高之
（藤田医科大学ばんだね病院 耳鼻咽喉科 教授）

教育講演
アニサキスアレルギーと私
～なぜアニサキスが重要なのか～
演者：鈴木 慎太郎
（昭和大学医学部医学教育学講座/医学教育推進室 准教授）
（昭和大学医学部内科学講座呼吸器・アレルギー内科学部門 准教授）

【クロージングリマークス】
矢上 晶子（藤田医科大学 総合アレルギーセンター センター長）

お問い合わせ ▶ 総合アレルギーセンター事務局（ばんだね病院内）
TEL：052-323-5715 MAIL：a-center@fujita-hu.ac.jp（石田・竹田）



3か月に1度、
医療従事者向けにZoomで勉強会を開催

当センターの活動概要

情報提供：ウェブサイト (HP・YouTube)

皮膚科領域	皮膚科領域の総論知識を学べます。	
スキンケア	スキンケア指導について解説します。	
食物経口負荷試験	食物経口負荷試験について解説します。	
ブリックテスト	ブリックテストについて解説します。	
パッチテスト	パッチテストについて解説します。	
呼吸器内科関連	呼吸器内科関連について解説します。	



当センターの活動概要

人材育成・他施設との交流



コロナ禍後、診療研修受け入れを再開し(2022年12月～)、2025年1月までに40名参加

免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援

新規

免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業

令和5年度予算額
38百万円

1 事業の目的

- アレルギー疾患対策の推進に関する基本的な指針（平成29年3月21日厚生労働省告示第76号、令和4年3月一部改正）において、国は、アレルギー疾患を有する者が適切なアレルギー疾患医療を受けながら、本人又はその家族が就労を維持できるような環境の整備等に関する施策について各事業主団体に対し、周知を図ることとされている。
- 厚生労働科学研究において、免疫アレルギー疾患のために、就職に不利になった方、仕事量や内容が制限された方、仕事のために通院が制限された結果、症状が悪化した方や子どものアレルギー疾患の治療や通院等のために仕事が制限されている方が一定数いるという問題点が明らかになっており、免疫アレルギー疾患患者又はその家族が安心して治療と仕事を両立できることを目的とする。

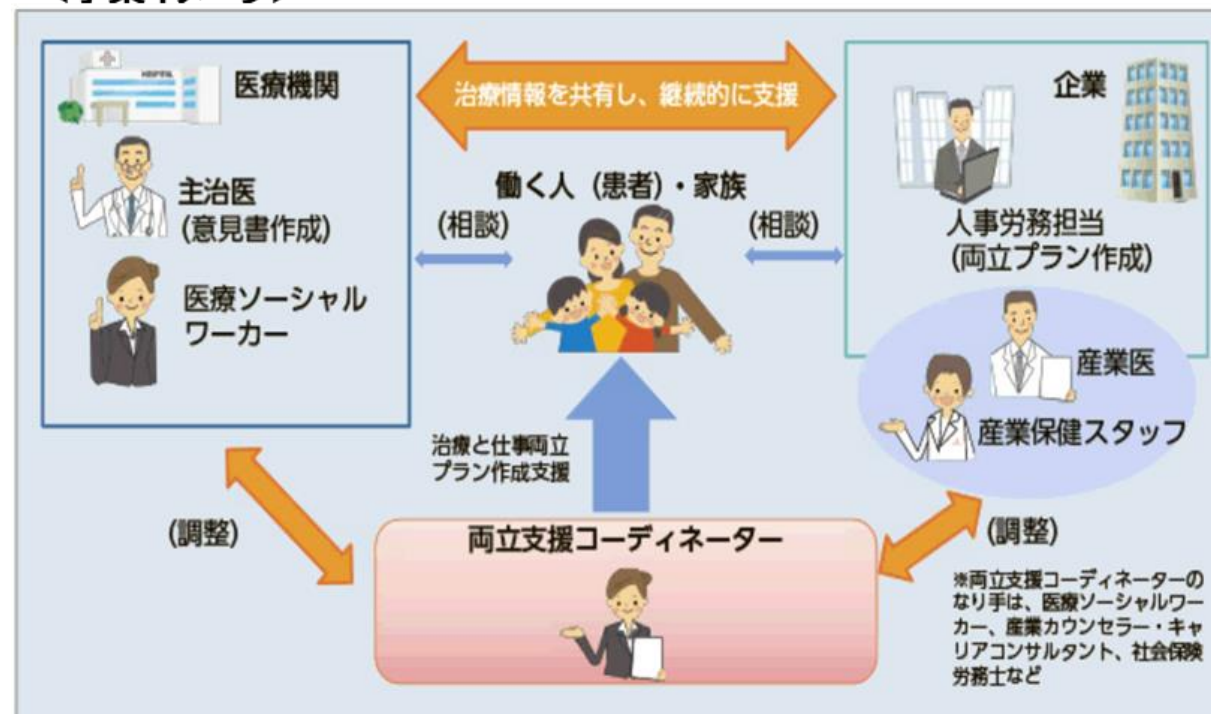
2 事業の概要・スキーム

<事業の概要>

○免疫アレルギー疾患患者又はその家族が安心して仕事の継続や復職に臨めるよう、都道府県アレルギー疾患医療拠点病院に「両立支援コーディネーター」を配置する。

○都道府県アレルギー疾患医療拠点病院において、両立支援コーディネーターが中心となり、免疫アレルギー疾患患者又はその家族の個々の治療、生活、勤務状況等に応じた、治療と仕事の両立に係る計画を立て、支援を行うモデル事業を実施する。

<事業イメージ>



3 実施主体等

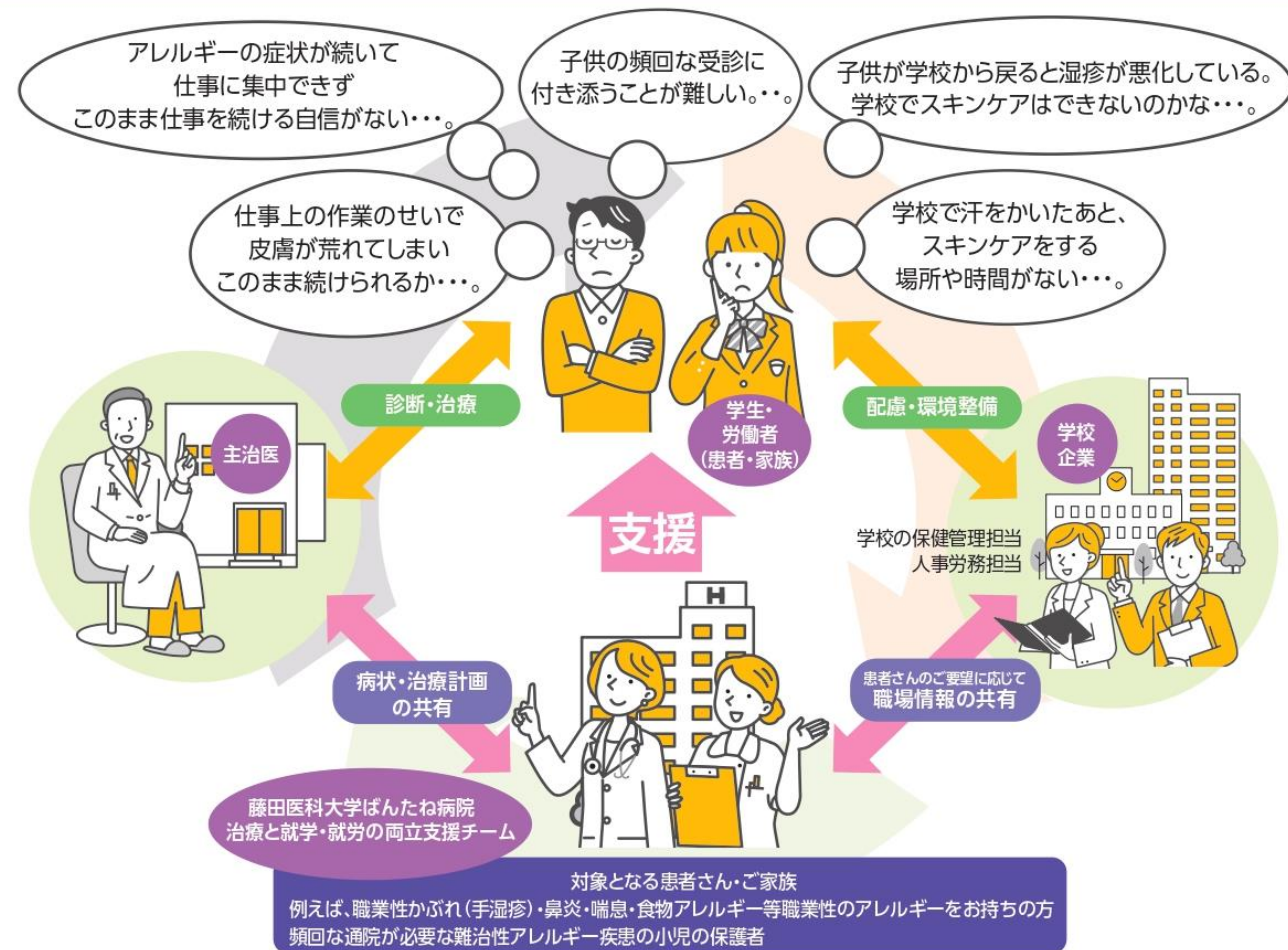
- ◆ 実施主体：都道府県アレルギー疾患医療拠点病院
- ◆ 補助率：定額（10/10相当）

- ◆ 箇所数：8箇所
- ◆ 1箇所あたり：470万円

1. 当センターにおける両立支援の取り組み

両立支援 2つの柱

患者さんへの両立支援



企業に向けての勉強会



アレルギー疾患患者さんの困りごとを解決出来るよう、適切な治療を受けながら仕事、学業を続けるための支援システムを構築し、患者さんをチームでサポートまた、取り組みを広く知ってもらうための情報を提供

企業がアレルギーに対する理解を深めることで、アレルギー疾患を持つ従業員が悩むことなく柔軟な働き方や適切な環境整備を享受でき、その結果、離職を防ぎ、雇用の継続に繋がるよう勉強会を開催

1. 当センターにおける両立支援の取り組み

患者さんへの両立支援

実施体制

【両立支援症例検討会】

月2回開催

面談前後に患者について検討、フォローアップ

腎臓内科

膠原病
(リウマチ関連疾患)

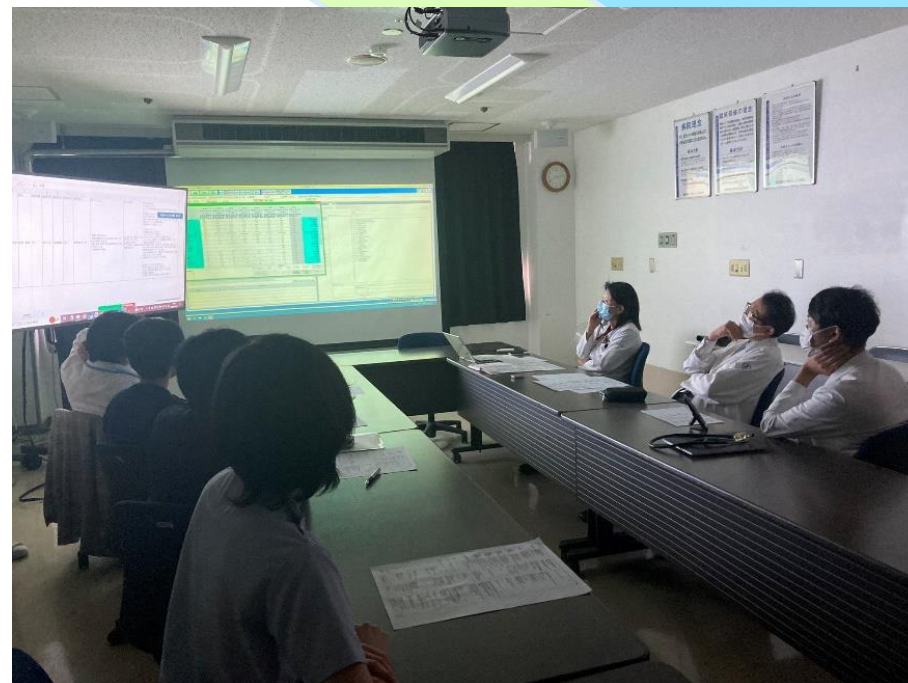
総合アレルギーセンター

両立支援
コーディネーター
(医療相談室)
(医療ソーシャルワーカー)

【両立支援面談】
月2回の予約枠
1日最大2件1人1時間

【多職種運営委員会】
月1回報告会

各科医師
看護師
薬剤師
事務員
心理療法士
検査技師
管理栄養士



《両立支援に関わった人員》

・8診療科 医師・研究員 18名

(総合アレルギー科、小児科、呼吸器内科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科、消化器内科、腎臓内科)

・専任事務員2名

・医療福祉相談室 医療ソーシャルワーカー1名、臨床心理士1名

・看護部、薬剤部、検査部、事務部、施設課、食養部

※うち4名(医師、研究員、事務員、医療ソーシャルワーカー)が「両立支援コーディネーター基礎研修」修了

1. 当センターにおける両立支援の取り組み

患者さんへの両立支援

実施体制

【両立支援をスタートするための病院側での準備】

1. 両立支援コーディネーターの確保

当院には地域医療連携センターに医療相談室が設置されており、そこに所属しているMSW(医療ソーシャルワーカー)が両立支援コーディネーターの資格を保有していた為、アレルギーに関する両立支援を実施する旨、依頼。

2. 両立支援面談を実施する予約枠日時、場所を確保

当院ではMSWと相談し、月2回、第2火曜日、第4木曜日の14時から16時、1日最大2件、1人1時間までとした。面談場所は基本的には医療相談室とした。

3. アレルギーを診察する科の医師に情報共有

アレルギーに関連する診療科は、小児科、呼吸器内科、耳鼻咽喉科、眼科など多科に渡る為、関係する医師に情報共有し、面談予約の方法や患者さんへの案内方法など共有。

当院では、電子カルテ上に予約枠を作成し、各科医師が予約入力できるようにした。MSWは定期的に予約枠をチェックし、予約状況を把握。

4. 支援対象者の情報共有

医師とMSWが情報共有をスムーズに出来るよう、当院では第1・3水曜日14時半～、症例検討の時間を設定。面談前、面談後に情報共有。その時間以外にも個別に医師との情報共有に努めた。

さらに当院では・・・

* 月1回多職種運営委員会という様々なメディカルパートナーが参加する場で情報共有

* 支援対象者には、幼少期からのアレルギー疾患により精神的な症状を訴える方も多い為、心理療法士も同席し面談にあたった

1. 当センターにおける両立支援の取り組み

患者さんへの両立支援

実施体制

両立支援の患者さんの流れ



診療科受診時、
・患者さんからの両立支援面談希望の申出
もしくは、
・担当医師が両立支援の必要性を認識、
患者さんに説明、患者さんが両立支援面談を希望
両立支援がスタート。

診療



担当医師は両立支援の面談予約をし、
両立支援コーディネーターにその旨連絡。
可能であれば、患者自身に「基本情報収集票」
を面談までに記入してきてもらう。

診療科受診時、もしくは両立支援面談時に、
支援内容を伝え、必要があれば患者就労先
や就学先へコンタクトし、患者の現状や希望
を伝え、より良い方法を検討していく。



両立支援コーディネーターは面談前に、
電子カルテ上や担当医師から患者の病状、
就労就学状況を聞き取り。
隔週の症例検討時にも相談。

ポイント👉 患者の状況理解



両立支援面談実施。
患者さんの現状、困りごと、希望などを聞き取り、
どのような支援が必要、可能かなど検討。



面談後、担当医師や両立支援チームと
治療方針、支援内容を検討。両立支援プラン作成
(隔週の症例検討時や月1回の多職種によるミーティング時)

ポイント👉 支援内容の評価と改善

ポイント👉 継続的サポートの提供

ポイント👉 職場や学校への理解促進と調整支援

1. 当センターにおける両立支援の取り組み

患者さんへの両立支援

両立支援の必要性の実態調査

第73回日本アレルギー学会 2023年10月20日(日) (京都) MS45-1 発表

2024年3月実施 倫理審査委員会承認番号: HM23-459

【一部抜粋】

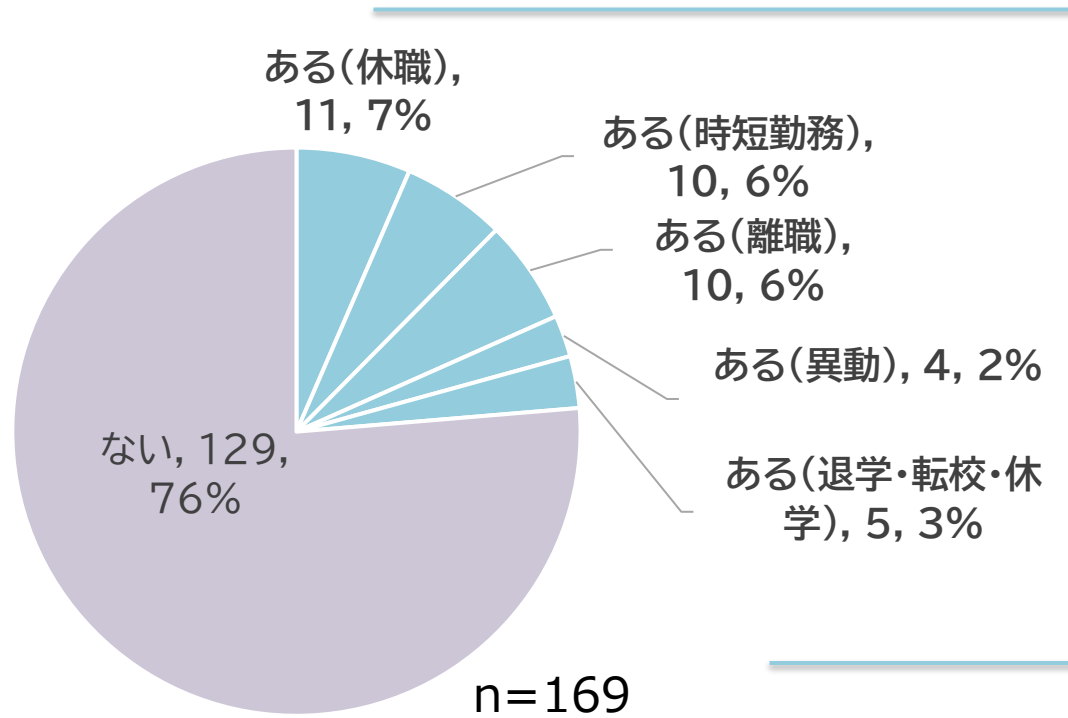
アレルギー疾患が就学・就労に及ぼす 影響に関する院内実態調査

矢上 晶子, 近藤 康人, 中田 誠一, 岡野 高之, 谷川 篤宏, 片野 義明, 秋田 浩孝, 桑原 和伸,
鈴木加余子, 二村恭子, 森 雄司, 水谷 公美, 木村 文美, 小林 隆, 廣瀬 正裕

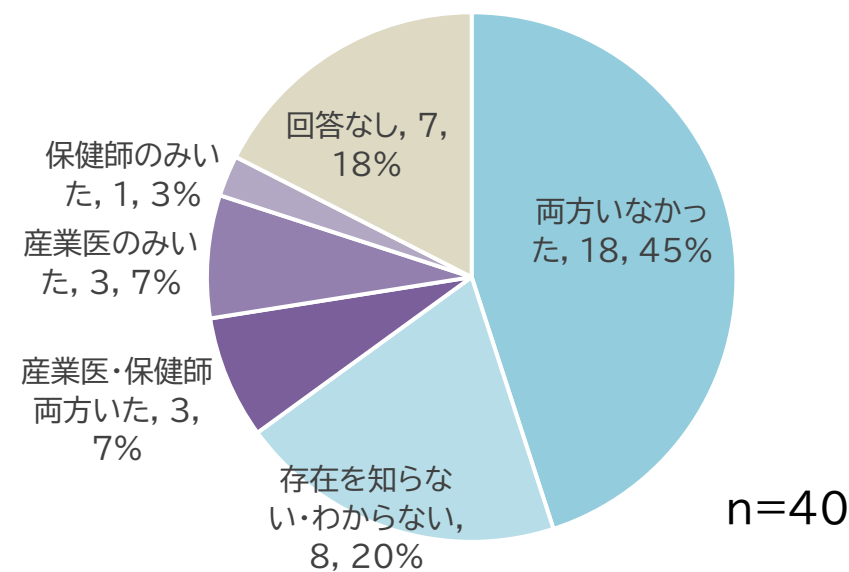
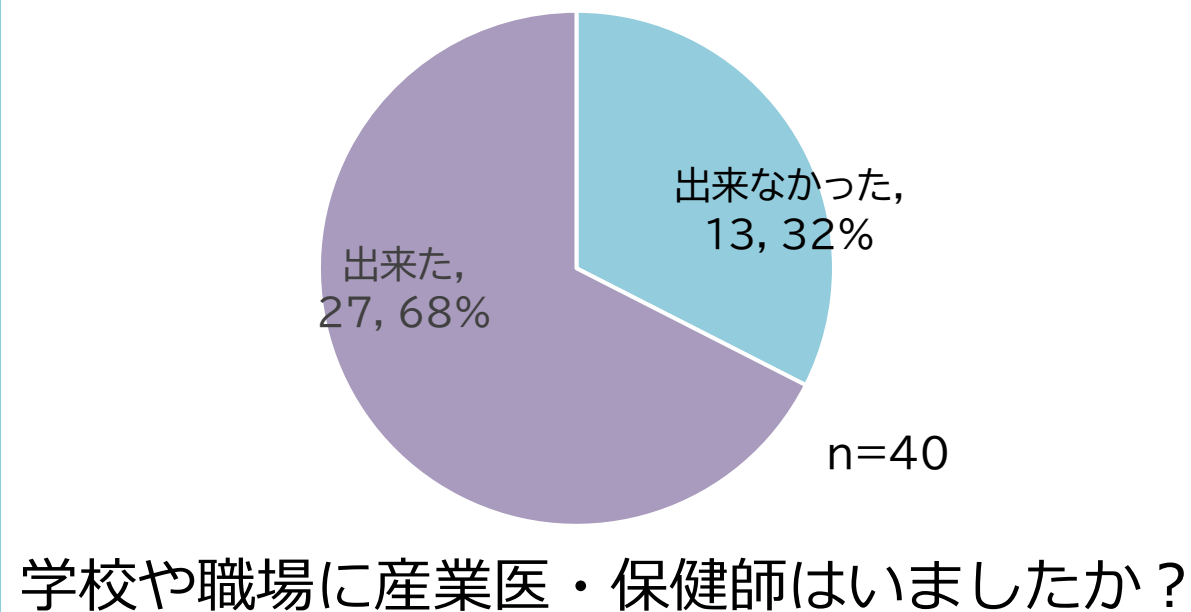
藤田医科大学 総合アレルギーセンター

結果 (1) : アレルギー疾患患者 本人

⑦-1 アレルギー疾患の為に就労・就学に大きく困難をきたしたことはありますか？
困難をきたした際に相談できましたか？

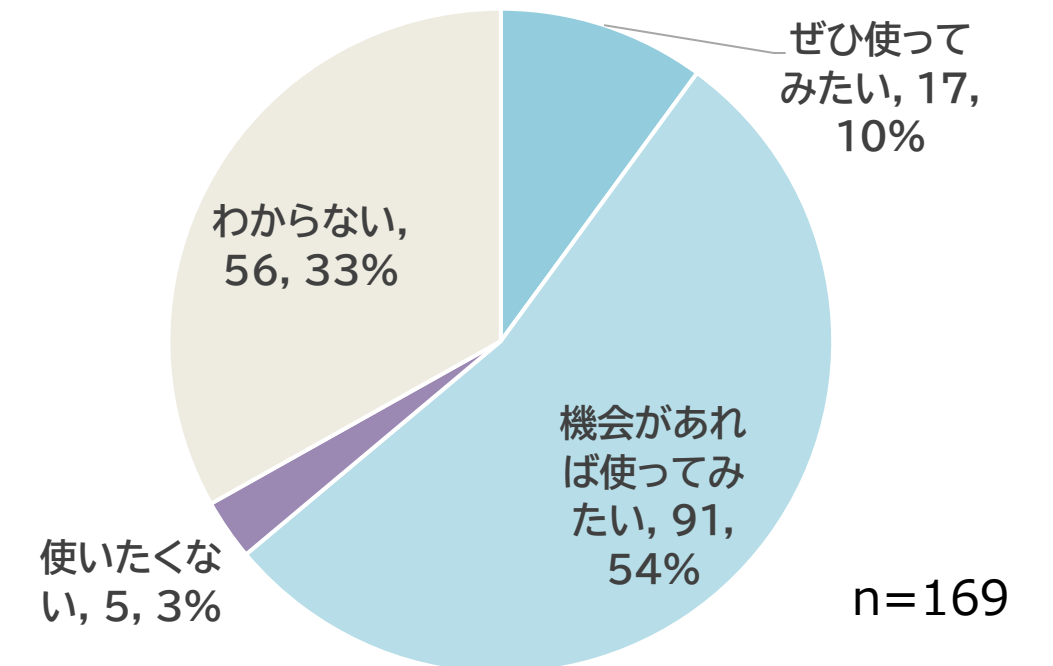


その際に学校や職場に相談できましたか。



25%(4人に1人)の方が「アレルギー疾患の為に就労・就学に大きく困難をきたしたことがある」と回答

⑧両立支援の仕組みを使ってみたいですか？

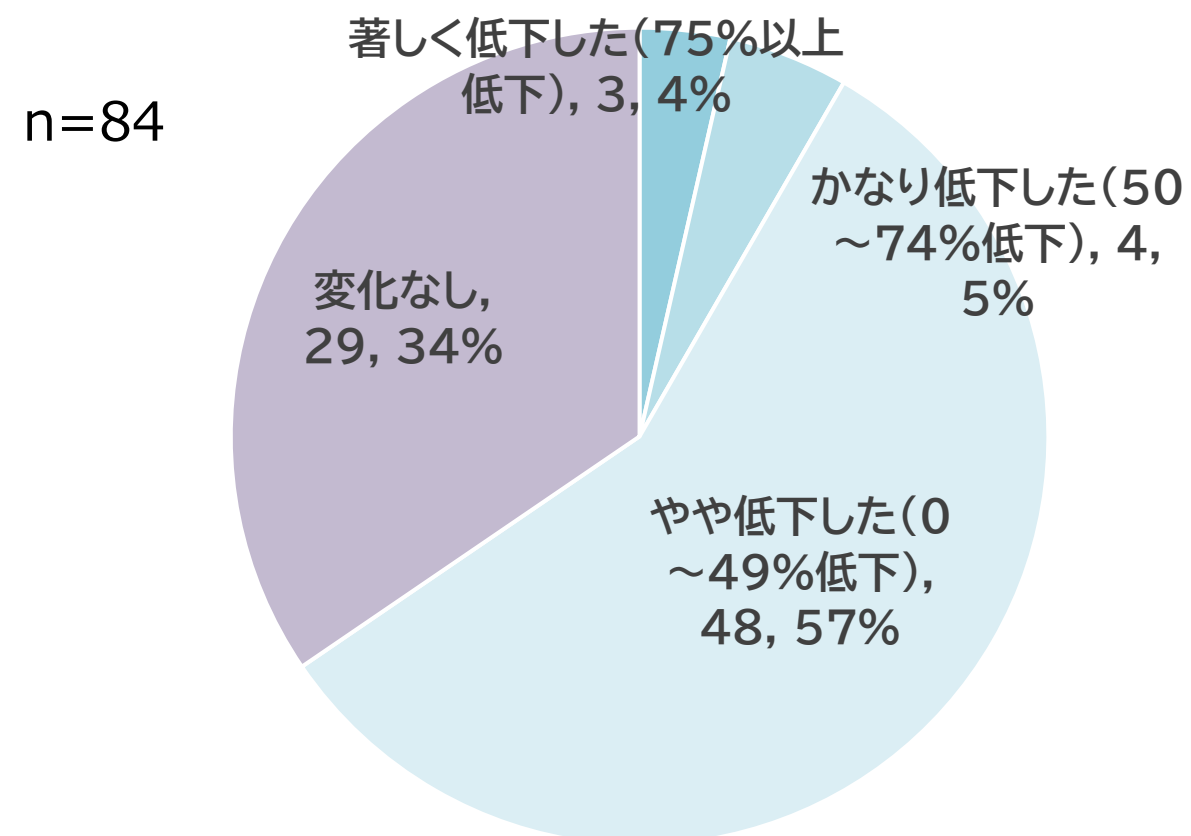


64%が「両立支援の仕組みを使ってみたい」と回答

65%の方が「産業医、保健師はいない／存在を知らなかった」と回答 ➡ 相談できない環境

結果（2）：18歳未満の患者の家族・付き添い者

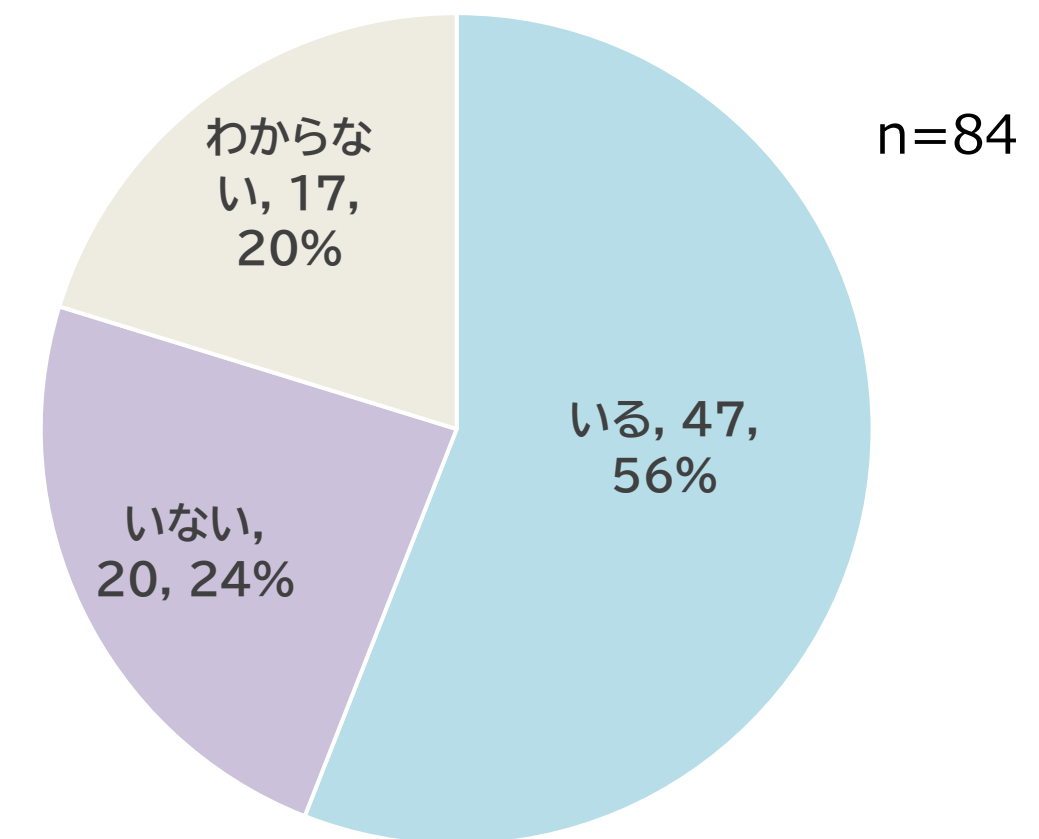
⑥アレルギー疾患の為に、患者の学業の生産性、もしくは患者の治療通院の為に保護者の仕事の生産性が変化しましたか？



7割弱の付き添い者が「こどものアレルギー疾患の為に、こどもの学業の生産性、もしくはこどもの治療通院の為に保護者の仕事の生産性が低下した」と回答

➡こどものアレルギー疾患により自身の仕事の生産性が低下

⑤患児のアレルギー疾患について患者本人の学校や保護者の職場に（通院の為の内容を）相談出来る人はいますか？



4割強の付き添い者が、「こどものアレルギー疾患についてこどもの学校や保護者の職場に（通院の為の内容を）相談出来る人はいないもしくはわからない」と回答

➡こどものアレルギーの治療等について、学校や職場で相談する人は少ない

1. 当センターにおける両立支援の取り組み

患者さんへの両立支援

情報提供

患者さん向けチラシ

連携病院向けチラシ

WEBページ作成・相談窓口設置

● 令和6年度免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業 ●

アレルギー疾患の治療と就学・就労の両立をサポートします

藤田医科大学ばんだね病院では、アレルギー疾患患者さんが適切な治療を受けながら仕事を続けるための支援システムを2023年7月より開始しました。

疾患が原因で就学・就労に支障がでて悩まれている方いませんか？ そういった方たちが学校や職場で適切な措置を受けられるよう、専門医と両立支援コーディネーターがチームとなって個々の症状や状況に合わせた治療・生活・勤務状況などを考慮した就学・就労環境を提案し、患者さんの治療と仕事の両立をサポートしていきます。

● 令和6年度免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業 ●

地域医療機関の先生方へ

アレルギー疾患の治療と就学・就労の両立をサポートします

藤田医科大学ばんだね病院では、アレルギー疾患患者さんが適切な治療を受けながら仕事を続けるための支援システムを2023年7月より開始しました。

アレルギー疾患を持つ患者さんは、疾患が原因で就学・就労を継続することが困難なケースが見られます。そういった方たちが職場で適切な措置を受けられるよう、専門医と両立支援コーディネーターがチームとなって個々の症状や状況に合わせた治療・生活・勤務状況などを考慮した就労環境を提案し、患者さんの治療と仕事の両立をサポートしていきます。

治療と仕事の両立支援

TOP

TOP 両立支援事例

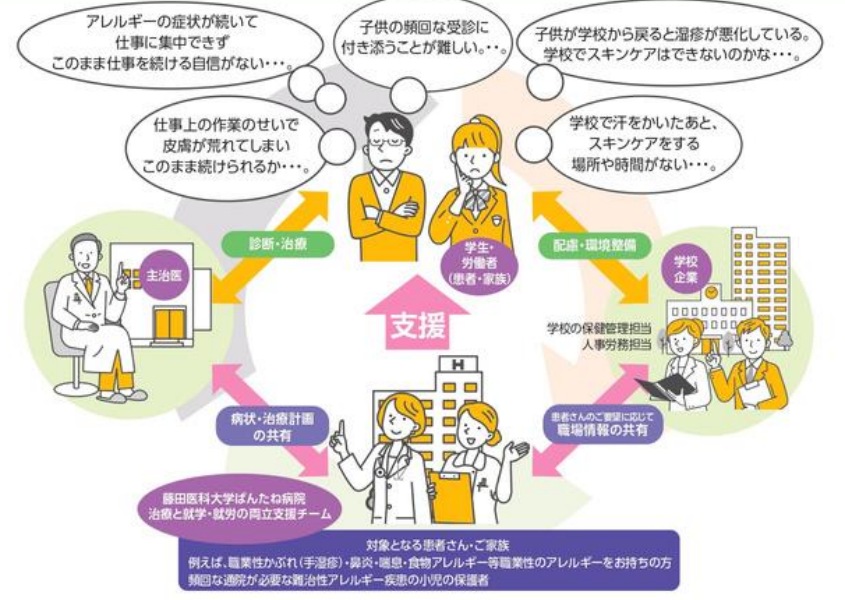
治療と仕事の両立支援

● 令和6年度免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業 ●

アレルギー疾患患者さんが適切な治療を受けながら仕事・学業を続けるための支援システムを構築し、2023年10月から運用を開始しました。アレルギー疾患の治療を受けながら安心して仕事の継続や学業に臨める環境整備を目的に、厚生労働省が「免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業実施法人」を公募、令和5年度に引き続き、令和6年度も当センターがモデル事業に採択されました。

当センターが構築した両立支援システムでは、ばんだね病院の「治療と就学・就労支援チーム」が患者さん個々の症状や状況を総合的に考慮した就学・就労環境を提案し、患者さんのかかりつけ医、企業の産業医・労務担当者、学校と病院が治療計画を共有し、患者さんが就学・就労を継続するために必要な支援をチームでサポートします。

両立支援面談予約日：第2火曜日・第4木曜日（診療科受診時にお尋ねください）



治療と就学・就労の両立にお悩みの方は、ばんだね病院の各診療科を受診した際にご相談ください

受診方法は当センターHPよりお願いいたします。

当センターHP

ばんだね病院HP 外来診療科別表

治療と就学・就労の両立にお悩みのアレルギー疾患の患者さんをご紹介ください。

ご紹介は当センターHPよりお願いいたします。

当センターHP

ばんだね病院HP 外来診療科別表

相談窓口

アレルギー疾患の治療と就学・就労の両立でお悩みのご相談にお答えいたします。

- アレルギー疾患の治療と就学・就労の両立についての質問に無料でお答えいたします。
- アレルギー疾患全般に関する心配事や悩み事についてはこちらのページへ
- 患者さんやそのご家族だけでなく、医療従事者、教育関係者、企業の皆さまなどアレルギーに関わっている様々な業種の方からのご相談にも対応いたします。どうぞお気軽にご相談ください。

※相談窓口は、一般の方へのアレルギー疾患に関する適切な情報提供およびアレルギー診療に関わる医療従事者や教育関係者等への人材育成のための情報提供を目的としております。

※相談窓口を利用して診療を行うことはできません。

※回答によって症状が改善されなかったとしても責任を負うものではありません。

入力フォームは以下のアイコンをクリックしてください。

治療と就学・就労の両立のご相談

1. 当センターにおける両立支援の取り組み

患者さんへの両立支援 情報提供

藤田医科大学よりプレスリリース

<https://www.fujita-hu.ac.jp/news/j93sdv00000nnvx.html>

医療・教育ルート 2023年11月6日 藤田医科大学

総合アレルギーセンターで実現するアレルギー疾患患者の治療と就学・就労の特色ある両立支援

総合アレルギーセンターが設置されている「ばんだね病院」(所在地:愛知県名古屋市中川区尾頭橋三丁目6番10号 病院長:堀口明彦)は、厚生労働省の「令和5年度免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業」の実施法人に採択され、2023年7月、アレルギー疾患患者さんが適切な治療を受けながら学業・仕事を続けるための「両立支援チーム」を立ち上げ、9月より実運用を開始しました。

両立支援では、就労現場の理解を深めることが重要となります。11月13日、ホーユー株式会社の従業員を対象に、「アレルギー疾患と就労の両立」についての勉強会を開催します。実効性の高い両立支援の実現に関する活動の一環として、ぜひご取材ください。

■藤田医科大学総合アレルギーセンターの特色を活かした両立支援

総合アレルギーセンターは、総合アレルギー科、呼吸器内科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、小児科、消化器内科などの医師に加え、高度な専門知識と指導技術をもった医療スタッフ(看護師、薬剤師、管理栄養士など)が、それぞれの専門性を交え、精力的にアレルギー疾患の臨床、研究、教育等を行っています。

全年齢、全方位のアレルギー疾患に対応できる利点を活かし、職業性アレルギーの対応として企業での勉強会を開催するなど、より実効性の高い両立支援の実現を目指しています。

「両立支援チーム」

アレルギー診療の経験豊富な医師・医療スタッフ、両立支援コーディネーターで構成。診療情報、生活状況、学校・職場環境などの情報を総合的に検討し、診療と就学・就労が両立・継続できる最適な支援内容を決定します。

両立支援コーディネーターは、相談者と診療とは別枠で面談し、策定された支援プランに基づき、また相談者の立場・目標を大切に満足度の高いサポートを行っています。

1 / 2 藤田医科大学

【中日新聞、東京新聞、公明新聞に取り組み内容が掲載】

アレルギー疾患 治療と仕事の両立へ

厚労省がモデル事業

気管支ぜんそくやアトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患。職種や職場環境によっては、症状が悪化するだけでなく、業務多忙で、定期的な治療・通院が難しくなる患者もいる。そこで、厚生労働省は治療と仕事の両立へ支援するモデル事業を2023年度に実施している。

アレルギー症状が続き、仕事に集中できない。業務のせいで皮膚が荒れてしまう。近年、アレルギー疾患の患者が増加する中、こうした職場での悩みを抱える人が増えている。厚労省の調査によると、20年度では、アトピー性皮膚炎の患者へのアンケートで、仕事量や内容が制限されると感じた人は、34.8%に達した。厚労省は、こうした患者の悩みを解消し、治療と仕事の両立を支援するモデル事業を2023年度に実施している。

アレルギー疾患患者の両立支援には、治療と仕事の両立を支援するモデル事業が有効である。このように、ぜんそくやアレルギー性鼻炎など、仕事に制約されるケースは多い。職場の理解を得られず、環境が改善できなかったり、適切な治療を受けられなかったりする患者は、職場での悩みを抱える人が増えている。

厚労省の調査によると、20年度では、アトピー性皮膚炎の患者へのアンケートで、仕事量や内容が制限されると感じた人は、34.8%に達した。厚労省は、こうした患者の悩みを解消し、治療と仕事の両立を支援するモデル事業を2023年度に実施している。

アレルギー疾患患者の両立支援には、治療と仕事の両立を支援するモデル事業が有効である。このように、ぜんそくやアレルギー性鼻炎など、仕事に制約されるケースは多い。職場の理解を得られず、環境が改善できなかったり、適切な治療を受けられなかったりする患者は、職場での悩みを抱える人が増えている。

職場環境の改善につながる

モデル事業を実施するも、モデル事業に取り組み、同病院内の「アレルギー疾患患者の両立支援センター」を立ち上げ、アレルギー疾患患者の両立支援に取り組む。同病院内の「アレルギー疾患患者の両立支援センター」を立ち上げ、アレルギー疾患患者の両立支援に取り組む。

アレルギー疾患患者の両立支援には、治療と仕事の両立を支援するモデル事業が有効である。このように、ぜんそくやアレルギー性鼻炎など、仕事に制約されるケースは多い。職場の理解を得られず、環境が改善できなかったり、適切な治療を受けられなかったりする患者は、職場での悩みを抱える人が増えている。

1. 当センターにおける両立支援の取り組み

患者さんへの両立支援

両立支援事例報告

【症例】14例(継続中10例・終了4例)

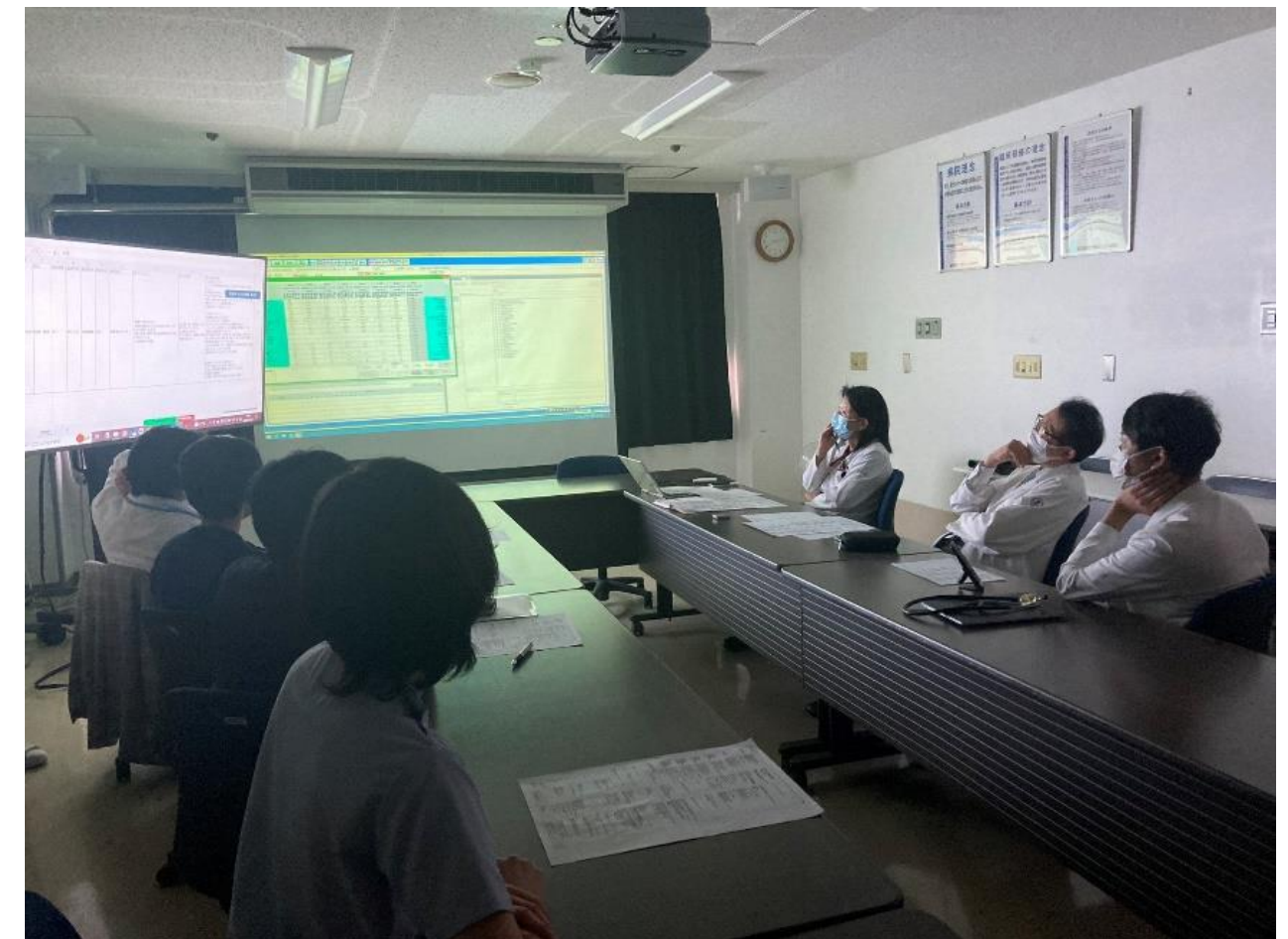
性別

男性4人、女性10人



年代

10代 3人、20代 5人、30代 2人、40代 4人



1. 当センターにおける両立支援の取り組み

患者さんへの両立支援

両立支援事例報告

とにかく咳が辛い！

～Kさんの場合～

疾患名:食物アレルギー、喘息、花粉症、アトピー性皮膚炎

(本人の希望)

職場で咳がひどく、自分もつらいし、コロナ以降は、周りの目も気になる。

何とかしたい。

(支援内容)

どのような場合に咳がひどくなるのかを聞き取った。職場の掃除の際に特に咳がひどくなるとのことで、ホコリなどが原因と考えられた。マスクをする、掃除の際は別の部屋で待機するなどの対処法を検討し、職場担当者に相談、対応してもらった。

(支援結果)

欠勤する頻度が下がり、就労を継続



みんなと同じように料理がしたい！

～Hさんの場合～

疾患名:食物アレルギー(運動誘発性小麦アレルギー)

(本人の希望)

食物アレルギーのために、学校での調理実習が受けられない。他のみんなと同じように実習を受けたい。

(支援内容)

Hさんの場合は、食物アレルギーがあるものの、調理で触るのは体に支障がないため、その旨を学校に説明出来るようアドバイス。

(支援結果)

調理時は手袋を着用する、エピペン®を所持する等、万が一にも備え、実習に参加することになった。

学校に行きたいけれど・・・

～Kくんの場合～

疾患名:花粉症、アトピー性皮膚炎、起立性調整障害

(本人の希望)

毎日、学校に通いたい(現状:昼夜逆転し、朝起きられない)

(支援内容)

学校担任、養護教諭、担当医師を交え面談実施し、本人の病状(起立性調節障害の疑いによる体調不良)を共有。学校での生活態度の聞き取り。アレルギー性鼻炎の症状がひどかったため、適切な診断、治療をして症状が軽減。集中力の持続に影響したと考える

(支援結果)

保健室登校など学校関係者に理解を求め、学校早退、欠席は減少、登校を継続。引き続き、経過観察。

アレルギー疾患では新規治療薬が登場し、重症化を防ぐことができる時代になっているが、それを知らないことで治療を受けず症状が重くなってしまった方も多くいることを実感

【支援が困難であった事例】

- ・幼い時から様々なアレルギーを患い、喘息の症状コントロールが不良。発作が頻発することで、不安が高まり、抑うつ症状も併発。精神科クリニックへも通院、生活保護受給中。支援の手立てが見つからず、支援終了。
- ・アレルギー症状と共に、統合失調症もあり、心理的な掻きむしりもひどく、投薬の指示も守れない。障害年金を受給中で、自宅からの外出も困難で、本人の申し出により支援終了
- ・両立支援コーディネーターが現状を傾聴するも、具体的な支援方法が見つからない
- ・働く意欲はあるものの、朝起きられない、体調が悪くなるなど休みがちになり、就労が続かない



移行期や若年成人の治療の重要性を実感

1. 当センターにおける両立支援の取り組み

企業における両立支援

企業での勉強会の実施

アレルギー疾患の治療と就労の両立に関する勉強会

誰もが社会を支える大切な一員であり、
一人ひとりが将来に希望を持って働き続けられる社会を目指して！



アレルギーが就労に及ぼす影響や、就労の際にその企業で発生し得るアレルギーについてのアドバイスなどを、企業向けに講演しました。

アレルギーは、癌や脳梗塞などのように死に直結する疾患ではありませんが、直結しないからこそ周りの人には伝えづらい疾患です。

また昨今では、働き方改革の推進、ハラスメント対策の強化等、就業環境や雇用者側の考え方にも柔軟性が求められています。

本勉強会を通してアレルギーの症状などを共有し理解を深めてもらうことで、アレルギー症状による離職を防ぎ、人材確保につなげたいと考えました。

【講演内容】

- ・企業が知っておくべきアレルギーの実態、仕事へのアレルギー負担
- ・企業はアレルギーにどのように対応、対策しておくべきか
- ・その企業で起こりうるアレルギー
- ・イキイキワクワク働ける職場環境の整備

藤田医科大学YouTubeに
勉強会の模様
治療と仕事の両立支援の説明動画を掲載
<https://youtu.be/TQgOfk7MrSg>



1. 当センターにおける両立支援の取り組み

企業における両立支援

企業での勉強会の実施

1. ホーユー株式会社

本社所在地:愛知県名古屋市

業種:ヘアカラー・頭髮化粧品の製造・販売

従業員数:1,000名以上

【対面開催】

講演日時:2023年11月13日15:00-16:30

講演会場:ホーユー株式会社総合研究所

(参加者数:77名)



3. 日本特殊陶業株式会社

本社所在地:愛知県名古屋市

業種:スパークプラグおよび内燃機関用関連品の製造、
ニューセラミックおよびその応用商品の製造、販売、その他

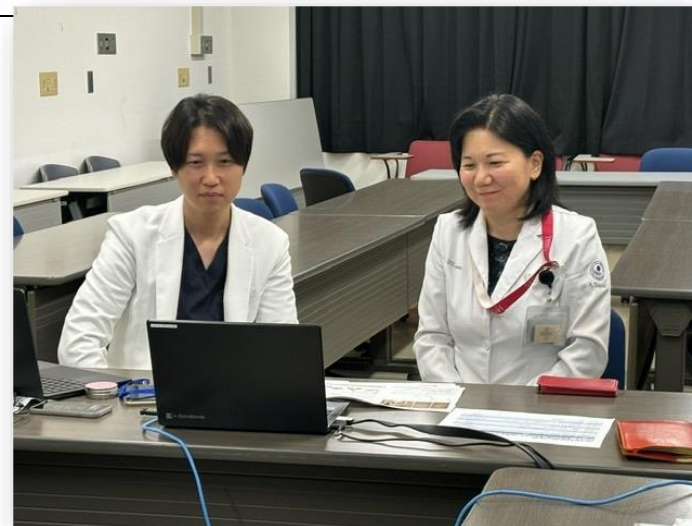
従業員数:単独:3,622名(2024年3月付)

連結:15,980名(2024年3月付)

【WEB開催】

講演日時:2024年10月24日15:00-16:00

講演会場:Web開催(聴講者数:131名)



5. スギホールディングス株式会社

本社所在地:愛知県大府市

業種:在宅医療にも対応した、
地域連携・地域密着型ドラッグストアの運営

従業員数:8,000名以上

【WEB開催】

講演日時:2024年1月15日14:00-15:00

講演会場:Web開催(聴講者数:85名)



2. 株式会社アイシン

本社所在地:愛知県刈谷市

業種:自動車部品、エネルギー・住生活関連製品の製造販売

従業員数:35,000名以上

【WEB開催】

講演日時:2024年3月11日15:00-16:15

講演会場:Web開催(聴講者数:175名)



4. 株式会社池田模範堂

本社所在地:富山県

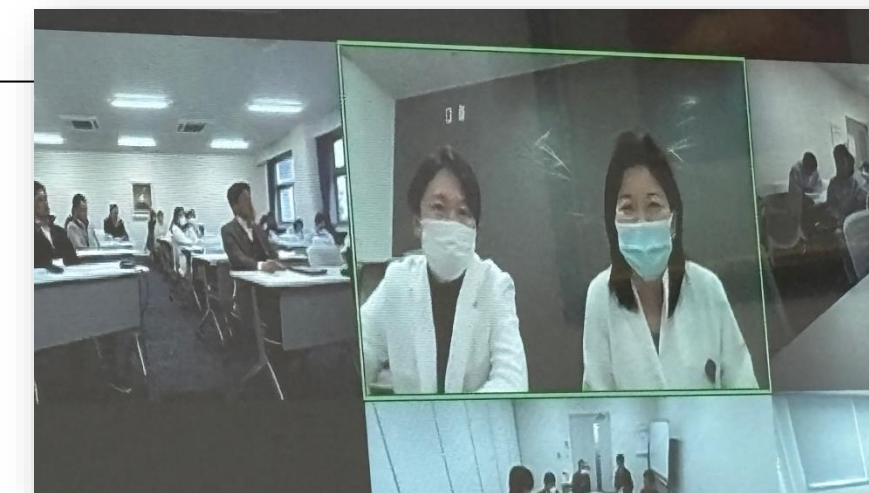
業種:医薬品の製造販売

従業員数:332名(2024年4月現在)

【WEB開催】

講演日時:2024年1月9日11:00-12:00

講演会場:Web開催(聴講者数:133名)



1. 当センターにおける両立支援の取り組み

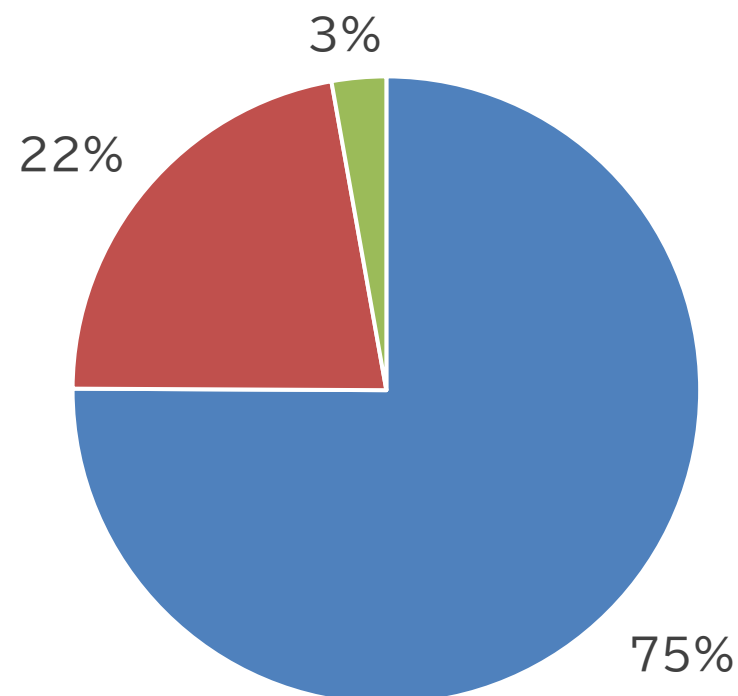
企業における両立支援

企業での勉強会の実施



【勉強会開催後 参加者アンケート結果 一部抜粋】

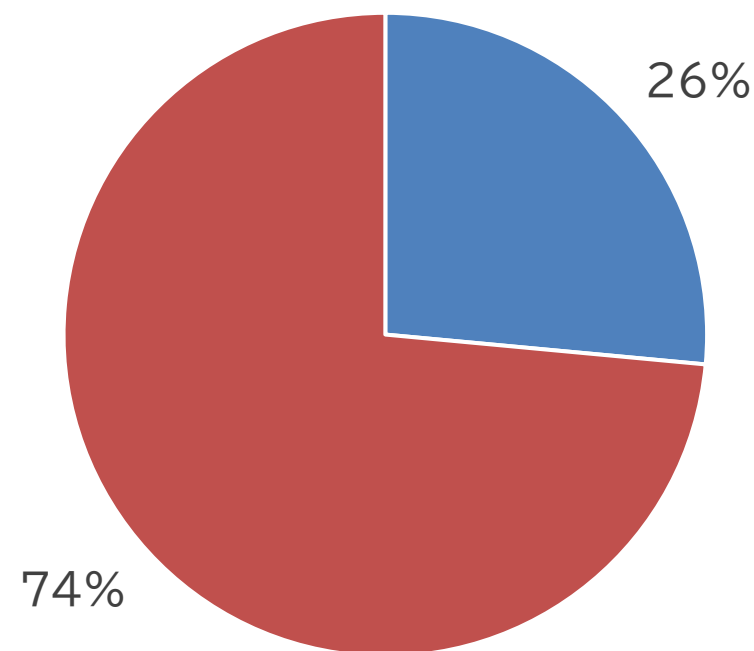
Q1 (ご自身もしくは周りの方で)アレルギー疾患が就労に大きく影響した方はいますか？(回答数:321)



- いない
- いる(就労に制限(異動・時短勤務職等)が出た)
- いる(離職した)

離職、異動や時短勤務、休職など大きく就労に影響した人が4分の1

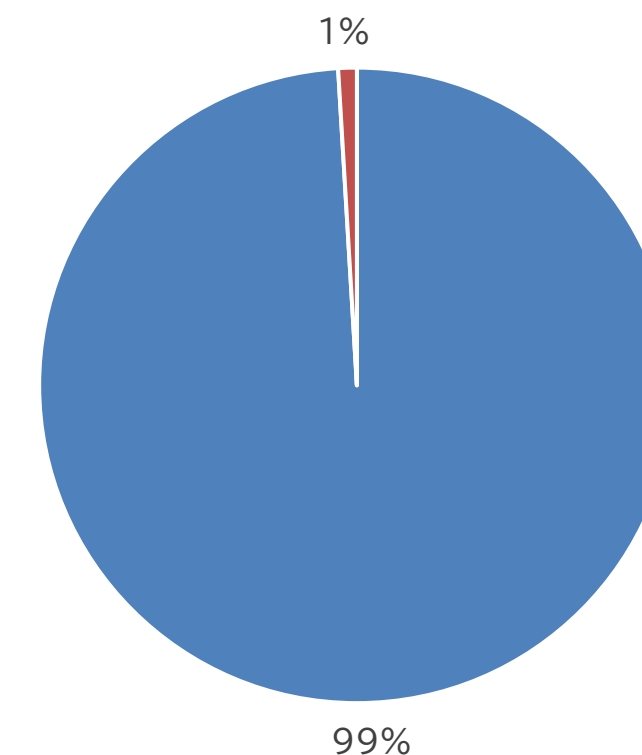
Q2 社内でアレルギー疾患に関わる相談をしたり受けたりしたことはありますか？(回答数:321)



- ある
- ない

社内で相談経験がある人が4分の1

Q6 ご自身や周りでアレルギー疾患の治療と就学・就労で困っている人がいたら、両立支援を活用したいと思いますか？(回答数:318)



- 活用する
- 活用しない

両立支援を活用したいという回答が99%

1. 当センターにおける両立支援の取り組み

企業における両立支援

企業での勉強会の実施

【勉強会開催後 参加者アンケート結果 一部抜粋】



担当や管理職だけでなく経営層の理解も必要、ひいては社会の理解が必要と思います。自分自身や身の回りのアレルギーで苦勞している人がいないと実感を持てないかもしれませんが、地道な啓もう活動があると少しずつ理解が広まるのかと思っています。

就勞が出来ないほどではないものの、アレルギー疾患のため睡眠不足となったり、集中力が途切れるぐらいの軽い症状の方もいると思います。そういった方の職場でのケアもできると良いと思いました。

人材面で比較的余裕のある大企業より、中小企業の理解が両立支援の実用化の鍵になると考えます。厚生労働省の関係する事業ですので、両立支援コーディネーターを有する企業に対する国の助成があると両立支援そのものの認知、普及が進むと思います。

会社の受け入れ態勢を整えていただくことが重要と考えます。

アレルギー疾患は年を重ねても、カタチを変えて影響を与えるため、長期的なサポートが必要であることを理解しました。そのためには、ハラスメント、介護などと同様に、就勞継続できるような世の中の理解が必要であり、そのための施策が国？からの強いメッセージが必要であると感じました。アレルギー疾患は身近であるため、まだ、我慢するべきとの認識が強いのではと思いました。

アレルギーに対する社会全体の理解を広めるための啓発活動
企業の産業医との連携が必要

2. 今後の課題

令和5・6年度モデル事業を通して

課題

- 両立支援が必要な移行期の患者へのアプローチ方法
- 両立支援の継続方法
- 長年に渡るアレルギー疾患による心の健康に対するケア



改善施策

- 小児科と成人患者を診療するその他の科との連携
- 通院、治療の大切さの周知
- 病診連携
- 産業医との連携
- 企業への周知



アレルギー疾患が就学・就労に与える影響、最新の治療方法、両立支援の取り組みを広く周知
病診・他科連携の強化

まとめ

多職種が連携し様々な活動を行っている当センターにおける両立支援の取り組みとして

- ① アレルギー疾患の治療と就学・就労の両立支援の診療体制を整え、患者さんや地域連携病院に向けて情報提供を実施
- ② 企業に向けてアレルギー疾患の治療と就労の両立に関する勉強会を実施

以上をまとめ、両立支援の取り組みが全国に広がるよう
他病院でも両立支援に取り組むことが出来る手引き書を作成予定



アレルギー疾患を持つ患者さんが、
患者さんのご家族が

アレルギー疾患と向き合いながら社会で活躍できるよう、企業や学校と医療が連携し
一人ひとりの患者さんや保護者の方々を支える社会を創っていただければと願っています



ご清聴ありがとうございました。